

<長尾の歴史> 明治・大正・昭和

○長尾はどんな所だったのか

職業別 町村名	農 業			工 業			商 業			漁 業		
	専業	兼業	計	専業	兼業	計	専業	兼業	計	専業	兼業	計
川崎町	75	37	112	182	24	206	597	38	635	—	—	—
大師河原村	650	20	670	35	8	43	110	18	128	15	15	30
御幸村	391	91	482	29	5	34	47	—	47	—	—	—
田島村	410	110	520	7	9	16	12	11	23	—	—	—
日吉村	241	224	465	17	21	38	12	21	33	—	—	—
住吉村	191	177	368	5	11	16	12	23	35	—	—	—
中原村	417	107	524	13	10	23	41	35	76	—	—	—
高津村	342	76	418	41	43	84	62	57	119	—	25	25
橋村	242	49	291	4	12	16	9	8	17	—	—	—
宮前村	252	175	427	12	18	30	15	20	35	—	—	—
向丘村	269	111	380	9	5	14	21	11	32	—	—	—
生田村	330	82	412	11	—	11	46	6	52	—	—	—
稲田村	419	372	791	15	—	15	28	—	28	2	—	2
柿生村	—	—	446	—	—	23	—	—	52	—	—	—
岡上村	—	—	59	—	—	2	—	—	8	—	—	—

職業別戸数 (大正1年) 註 柿生・岡上村は大正10年末調査資料 【神奈川県橋樹郡案内記, 神奈川県都筑郡郡勢一斑】

庶 業			無職 並職 業不 詳	合 計
専業	兼業	計		
47	—	47	510	1,510
80	21	101	3	975
17	—	17	—	580
—	—	—	—	559
6	8	14	—	550
21	—	21	—	440
—	—	—	7	630
—	7	7	—	653
11	3	14	3	341
—	—	—	—	492
8	—	8	1	435
—	—	—	5	480
—	—	—	—	836
—	—	27	1	549
—	—	2	—	71

★1889年(明治22年)の町村合併で向丘村となる。

★1912年(大正1年)の資料で見ると

・ 圧倒的に農家の多いところ

(隣村の「高津村」や「大師河原村」や「川崎町」とは好対照)

- ・ 畑と山林の割合の多い村 (多摩丘陵の特徴)
- ・ 明治初年には養蚕が広がったが 1884年の生糸大暴落を境に急速に衰える。
- ・ 代わって大正時代(1912年以后)は栗・梨の栽培が広がる。

★ 川崎の梨栽培の当時の中心は大師河原村

★ 「長十郎梨」は 1893(明治26)年に大師河原村の当麻辰次郎が開発。1897年の黒星病の大流行で長十郎梨だけが被害を受けず注目され、以後各地で栽培され梨の主流となる。

(収穫量が多い。甘味が強い。病害虫に強い)

メモ

○大正時代の市域

★工場地帯の発達→各地から働く人々が流入

表 2-8 沖縄県から県外に出張中の労働者に関する調査
(1925年8月現在, 沖縄県警察部保安課)

府 県 名	人 員		府 県 名	人 員	
	男	女		男	女
北海道	11		奈良	17	11
秋田	2		和歌山	217	609
宮城	1		鳥取	1	
福島		8	島根	4	
東京都	722	324	山口	17	4
神奈川県	1013	1832	広島	60	302
埼玉県	1		岡山	30	272
千葉県	4	3	徳島	5	1
			愛媛	1	1
新潟県	43	10	福岡	833	207
長野	3		長崎	125	82
静岡県	1	2	佐賀	4	3
愛知県	115	1121	熊本	81	15
三重	106	335	大分	40	400
岐阜	49	593	宮崎	1	
	35	299	鹿児島	167	117
滋賀	21	73	台湾	299	130
京都	81	47	朝鮮	2	2
大阪	4709	3824	樺太	2	
兵庫	274	187			
男子計 9097		女子計 10829	合計 19926		

(『沖縄県史』7巻より転載)

東北地方（青森・秋田・岩手・宮城）と沖縄県からの人が多かった。

★1923年（大正12年）9月1日の関東大震災

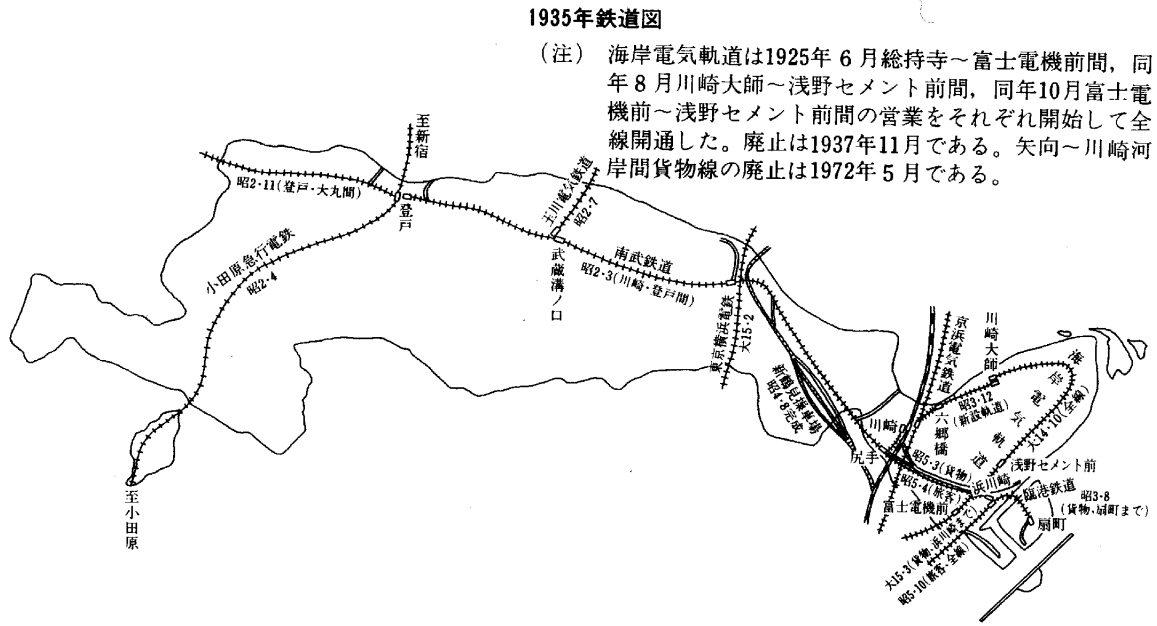
○死者行方不明数

町村名	人数
川崎町	792人
田島町	177人
御幸村	81人
大師町	59人
日吉村	14人
中原村	7人
高津村	7人
住吉村	4人
橘村	4人
宮前村	2人
稲田村	2人
向丘村	1人

○ 海岸部の死者の多くは工場や寄宿舍にいた労働者。沖縄からの女工さんも多い。

○北部地域の変化

★東京に直結する私鉄の開通以後



(『川崎市議会史 資料編』より転載)

○1926 (大正 15) 年：東京横浜電鉄 (現東横線) 開通

○1927 (大正 16) 年：玉川電気鉄道 (現田園都市線)

が溝口へ延長

小田急線開通・南武鉄道川崎登戸間開通

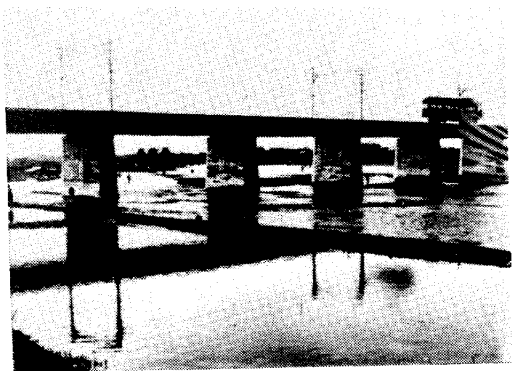
○1929 (大正 18) 年：南部鉄道登戸立川間開通

★ 都市文明へのあこがれ・進学熱の高まり (女性)

○女学校：川崎高等女学校 (1925) 高津実科高等女学校 (1928)

私立中原高等女学校 (1928)

そして東京の女学校に通う事も可能となった。



登戸の鉄橋を渡る開通当時の小田急電鉄

★ 娯楽・風俗店の出現

表 3-1 高津署管轄内の娯楽・風俗営業者等 (1920~36年)

	1920	26	30	33	36
劇 場	1	1	1	—	3
活 動 写 真 館	0	5	7	2	10
遊 戯 場	1	0	—	—	—
カフエー, バー*	0	0	—	33	25
カフエー女給	—	—	42	102	63
酌 婦	10	—	233	209	138
芸 妓	0	75	135	65	69
芸 妓 屋	0	46	45	37	25
待 合 茶 屋	0	20	29	34	258
料 理 店	5	33	35	35	22
飲 食 店	55	143	196	173	105

* 1920, 26年においては, 喫茶店, 銘酒屋の数
(『1930年代の地域変化と社会教育』より転載)

二子橋のたもとの水田地帯に突然二子新地が出現

★ 向ヶ丘遊園の開園 (1926年)

○ 川崎市への編入

沿 革 表

1924 (大正13) 年	7月	川崎町, 大師町, 御幸村を合併して川崎市制を施行。
1927 (昭和2) 年	4月	田島町を編入。
1933 (昭和8) 年	8月	中原町を編入。
1937 (昭和12) 年	4月	高津町と日吉村の一部(矢上川以東)を編入。
	6月	橋村を編入。
1938 (昭和13) 年	10月	稲田町, 向丘町, 宮前村, 生田村を編入。
1939 (昭和14) 年	4月	柿生村, 岡上村を編入。
1972 (昭和47) 年	4月	政令指定都市となり, 川崎・幸・中原・高津・多摩の5区となる。
1982 (昭和57) 年	7月	高津区より宮前区, 多摩区より麻生区が分区される(予定)。

★ 1938年国家総動員法が施行される中で川崎市に編入される←町村合併で地方財政を強化し戦争への準備を進めようとの政策

(独立町村へは補助金カットなどの圧力)